



今尾の子



令和4年度 えのき通信
海津市立今尾小学校だより
令和5年1月10日

新年にあたって



あけましておめでとうございます。

昨年は、本校の教育にご理解いただき、分散型授業参観や個別懇談など、ご協力いただきありがとうございました。今年もよろしくお願ひします。

さて、二学期を振り返ると、一番の成果は、児童、教職員共に無事に過ごすことができたことです。「進んでやりぬく」の基礎になる健康な体であったことが何よりです。コロナ禍でも、毎日の検温や健康観察を欠かさず、マスクを着用し、手指消毒を行ってきたことも一つの要因です。

また、七十八日の授業日数の二学期、学校に休まず登校した児童は、全校で八十人いました。これは、保護者、家族の方々、地域の方々のご理解・ご協力があったおかげです。

他にも、素晴らしい宝物が見つかりました。

○六年生を中心に、落ち葉の清掃や気持ちのよい挨拶の励行、そこで見つけた輝く姿の紹介をする。

○相手が気持ちよくなれるような挨拶が自然にできる子、「こんにちは」と相手の目を見ていえる子が多い。特に六年生は爽やかにしています。

○職員室への入退室でのあいさつを、爽やかに、心を込めてできる子が多い。

○ノートやプリントなどに、丁寧な字で書ける子が多い。

○靴の踵をそろえて下駄箱に入れ、トイレのスリッパもそろえる子が増えた。

○学校外での活動（藤橋研修や修学旅行、町探検など）でも、学校と同様に学習・生活できる。

○体育館等へ全校が集まる際の入退場が、短時間で整然と行うことができ、縦・横をそろえて並び、全校がそろえるまでの間も、静かに姿勢を正して待てる。

○チャイムが鳴らない日でも、時刻を意識して準備や移動ができる。

○言われなくても、話す人の方に体を向けて話が聞ける。

○など、続けて行えていること、向上したことがたくさんありました。

「世界一大きなビルディングには、世界一大きな基礎がある。」と言われます。子供は、そのような基礎ができます。

つつあります。高学年ほどしっかりと

しているとお褒めの言葉をいただくことが、その証です。

では、どうしたらさらに大きく、よりしっかりとした基礎ができるのでしょうか。

論語、孔子の教えの中に、『子曰く、学びて時に之を習う。亦（また）説（よろこ

ばしからずや。』という言葉があります。「学んだことを機会あるごとに反復すると理解が深まる。繰り返し練習すると、今までできなかったことができるようになる。何と楽しいことではないか。」という意味です。

つまり、すべての生活や学習に「進んでやりぬく」ことです。一人一人がより多くの情報を集め、考え判断し、仲間と共に協力して実践する。その中から自分に適すること、得意なことを見付け、その力を伸ばし、自信をもつことです。学校でも家庭でも、いつでも、どこでもできてこそより強固な基礎になります。

三学期は、その基礎作りの仕上げの学期であり、令和五年度に立ち向かうスタートの学期です。一年生から五年生は、今尾小学校の来年度につなげるために、六年生は、六年間を総括し、新たなステージに生かすために頑張る学期になることを期待します。

今後も 感染予防対策の徹底を

コロナ感染がまだまだ終息しない、他の感染症も心配される中ですが、これまで行ってきた**基本的な感染予防対策**を今後もより一層の徹底を家族ぐるみで願ひします。何卒今の状況をご理解いただき、ご協力を今後も願ひします。

（日比 修二）

